
CIIA スタディ・ガイド

(2025年版)



Certified International
Investment Analyst



公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

CMA (Certified Member Analyst of the Securities Analysts Association of Japan) は日本証券アナリスト協会、CIIA® (Certified International Investment Analyst) は国際公認投資アナリスト協会 (ACIIA®: Association of Certified International Investment Analysts) の登録商標です。

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

CIIA
スタディ・ガイド
(2025 年版)

目 次

I . CIIA 試験制度の概要	1
II . 試験について	3
III . 試験関連のスケジュール	5
IV . 過去の試験問題の傾向	6
V . 受験準備について	9

I. CIIA 試験制度の概要

1. 制度発足の経緯と現状

CIIA (Certified International Investment Analyst、国際公認投資アナリスト) 試験制度は、画一的な基準によらず、各国の固有かつ多様な制度やルール、言語等を尊重しつつ、市場のグローバル化に対応できる証券アナリストを育成することを目的とし、最終試験の合格者に国際資格称号 CIIA を授与するものです。

(1) 経緯

多様性の尊重と国際的共通性の確立という 2つの理念を実現できる制度を設立するため、1990年代後半から欧州 (EFFAS、European Federation of Financial Analysts Societies) とアジア (ASIF、Asian Securities and Investments Federation) の 2つのアナリスト連合会が協力して準備を進め、2000年6月に、欧州、アジア、南米にまたがる多数の証券アナリスト協会を構成メンバーとする運営主体 Association of Certified International Investment Analysts (ACIIA) が設立されました (後述)。日本証券アナリスト協会 (以下、当協会) は、ACIIA 発足以来の主要メンバーとして、CIIA 試験および ACIIA 組織の運営に関わっています。

教育・試験プログラムについては、世界各国の専門家からのインプットを整理・集約して共通部分を構築するアプローチが採用され、2001年3月以来、20年以上にわたって試験を実施しています。

(2) 現状

i) 世界的広がり

この間、本制度の構成メンバーも広がりを見せ、その数は発足当初の 9 団体から、2024年7月現在で 23 団体 (うち 1 つが EFFAS) となっています。この結果、CIIA 試験の両単位合格者数累計は 2024年3月試験までで 10,905 名に達し、うち 3,002 名が日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)、7,903 名が欧州、アジア等の各国協会の会員となっています。

ii) メンバー協会間の連携

CIIA 資格がグローバルに定着しつつある状況の下で、メンバー協会間において、自国以外の CIIA 資格保有者に対して会員資格を与える仕組みがあります。例えば、当協会の CIIA 資格保有者は、海外に赴任した際、現地の ACIIA 加盟協会の会員になることができます。現在、フランス、ドイツ、香港、イタリア、スイス、スペインなどの協会がこのような対応をしています。

iii) 海外の自主規制機関等による資格認定

英国の FCA (Financial Conduct Authority) や一部加盟協会所在の国などの当局・自主規制機関が、証券関連業務従事者に義務付けている条件を満たしている資格として CIIA を認定しています。詳しくは、当協会ウェブサイトの「[CIIA 資格のメリット](#)」を参照してください。

2. 運営主体

(1) 管理運営機構

CIIA 試験制度と資格付与の法的主体として、非営利法人である ACIIA が、2000 年 6 月に英国法人として設立されました（その後、2004 年 8 月にスイス法人となりました）。なお、CIIA 試験の運営・管理を除き、ACIIA 事務局機能は、2013 年 9 月にスイスからドイツ（フランクフルト）に移転しました。

ACIIA のメンバーは、2024 年 7 月現在、上記 EFFAS（連合会）のほか、地域別に、アジアの中国、台湾、香港、日本、韓国、ベトナム、欧州のフランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、スペイン、スイスなど、南米、アフリカなどの 22 協会（1 つの連合会を含めた計 23 団体）となっています。

(2) 試験管理主体

後述するシラバスの設定および更新、試験ガイド・学習要領の作成、CIIA 試験問題の選定・採点結果の確認および合否ラインの決定、さらに各国試験プログラムの評価など、CIIA 試験制度の学習分野に関する基本的事項は、ACIIA の専門委員会である International Examinations Committee (IEC) が所管しています。さらに、試験問題の作成、採点結果の集計および合否判定の実務については、CIIA 試験に関わる全般的な事務運営主体としてスイスに設けられた CIE (Centre for International Examinations) が、上記の IEC による監督のもと、参加各国協会と連携しながら進めます。なお、毎回の試験の運営は、ACIIA に参加する各国協会が行います。

3. CIIA 試験の構成

(1) CMA は最終試験にのみ合格すれば資格を取得

CIIA 試験は、次頁の表のように、各国固有の試験と国際共通試験から構成され、後者の国際共通試験は、基礎試験 (Foundation Examination) と最終試験 (Final Examination) の 2 段階となっています。

基礎試験をカバーするに足る十分な国内教育試験プログラムをすでに有している協会については、そのプログラムの詳細な資料を IEC に提出してその認証を受けることにより基礎試験を免除され、最終試験から参加することが認められています。当協会は制度発足当初にこの認証を受けていますので、CMA は各国固有の基礎試験および国際共通試験の基礎試験が免除され、国際共通試験の最終試験（計 6 時間）のみに合格すれば、CIIA 資格を取得することができます。当協会では、このような基礎試験の免除制度を踏まえ、CMA 資格の保有を CIIA 試験の受験要件としており、CMA を対象とした最終試験のみを実施しています。

最終試験では、理論の柔軟な理解と実務的な応用能力や判断力、論理展開力が問われます。そのため、ファイナンス理論等の概念を直接的に問うのではなく、事例等を通じて、分析・評価とその結果の説明能力を求めるタイプの出題となるように工夫されています。

(2) 最終試験で使用される言語

国際的共通性の確立という本制度の目的との関連で、コミュニケーションの手段としての言語についても、試験における標準言語を指定すべきかどうかを準備段階で決める必要がありました。この点については、慎重な議論の結果、最終的には、専門的能力の判定と言語能力の判定とを切り離して、試験に使用する言語の多様性を認める道が選択されました。様々な言語が通用する多数の国の受験者に受験機会を提供することを目的とした判断です。その結果、CMA 向けに実施される最終試験の言語は、出題・解答ともに日本語または英語を選択することができます。

試験の種類	内容	試験時間
● 各国固有の試験 (National Specific Examination)	参加各国協会がそれぞれの国/地域固有の分野（倫理、法制、会計制度、市場制度等）を対象として行う試験。	最低 3 時間以上
● 国際共通試験 (International Common Examination)	世界各国の学者・専門家より構成される上記 IEC の管理の下で国際的に共通の分野を対象として行う試験。	15 時間
・ 基礎試験 (Foundation Examination)	受験者の基礎的知識と分析力を問うもので、多肢選択式問題、計算問題、推論的問題で構成。7 科目につき、3 時間ごとの 3 つの単位 (unit または exam) に分けて実施。	計 9 時間
・ 最終試験 (Final Examination)	受験者のより高度な知識と総合的な分析力、応用力を問うもので、事例問題、論証問題、推論的問題（一部に計算問題も含まれる）で構成。7 科目（Ⅱ. 2.を参照）につき、3 時間ごとの 2 つの単位に分けて実施。可否の判定は単位ごとに行われる。	計 6 時間

Ⅱ. 試験について

1. 出題範囲と関連教材を示す Syllabus (シラバス) について

CIIA 試験の出題範囲と学習のためのガイダンスは、[『シラバス』\(CIIA Examination Syllabus\)](#) に示されています。出題範囲は、CMA 試験の出題範囲と概ね重複しますが、細部においては異なる項目や独立項目として明示されている固有の項目などもありますので、ACIIA のウェブサイト (www.aciia.org) に掲載されている CIIA Examination Syllabus を確認してください。

なお、シラバスは適宜更新され、変更内容および試験への適用開始時期がウェブサイト上に記載されていますので、併せて確認してください。

(ACIIA のウェブサイト参照先は[こちら](#))

2. CIIA 最終試験の出題科目と各科目のウェイトについて

(1) CIIA 最終試験の出題科目と各科目のウェイト

科目別の試験時間配分の目安（最終試験全体に対する割合：％）

第 1 単 位 (3 時間、180 点)	経 済	10%
	財 務 分 析	15%
	コーポレート・ファイナンス	10%
	株 式 分 析	15%
	小 計	50%
第 2 単 位 (3 時間、180 点)	債 券 分 析	15%
	デ リ バ テ ィ ブ 分 析	15%
	ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト	20%
	小 計	50%
(6 時間、360 点)	合 計	100%

(1) 科目別ウェイトの特徴

ポートフォリオ・マネジメントが全体（第1・第2単位合計）の20%程度と最も大きな比率を占める一方、経済とコーポレート・ファイナンスはそれぞれ10%程度と幾分小さくなっています。このウェイトは、CIIA 資格保有者として想定される人々の職業構成と、それぞれの職種における業務の内容とを勘案して定められたものですが、あくまでも目安に過ぎません。複数の科目にわたる複合問題（コーポレート・ファイナンス／株式分析など）もしばしば出題されています。試験準備においては、一部の科目に偏ることなく、バランスよく学習することが必要です。

(2) CMA 試験との対比

CMA 第2次レベルの教育・試験プログラムとの制度的な比較では、次の点が特徴になっています（実際の試験問題等における特徴についてはIV. を参照）。

- ・ 7 科目を 2 つの単位に分けて合否を判定するため、科目別試験の要素が含まれています。このため、1 科目の得点の合否への影響が CMA 第 2 次試験よりも大きくなりますから、合格のためには苦手な科目を克服することが求められます。
- ・ 「数量分析と確率・統計」は、明示的には試験問題には含まれていませんが、この分野が不必要であるということではなく、他の科目の共通な部分（または前提となる分野）と位置付けられています。したがって、他の科目の一部として、「数量分析と確率・統計」からの出題が含まれることが想定されています。
- ・ 「職業倫理」は、各国固有の分野と目されるため、出題科目には含まれません。ただし、CIIA 資格保有者の職業行動の指針として、“ACIIA Principles of Ethical Conduct” が策定・公表されています。なお、当協会の「証券アナリスト職業行為基準」は本原則の趣旨を既に含んでいます。

3. Formulae (CIIA 公式集) と電卓の使用

CIIA 試験の大きな特徴の1つとして、ACIIA が発行し、試験制度登録者に教材として提供される Formulae (公式集) が、試験場でも席上に用意され、解答の際に参照できることが挙げられます。公式を暗記する必要がない点は、記憶力ではなく理解・応用力などをテストするという CIIA 試験の精神を端的に表しています。もっとも、Formulae に掲載されている公式を用いた計算問題には、応用力が求められることに留意する必要があります。

試験場で使用できる電卓については、①通信機能、②スプレッドシート作成機能、③テキスト(文章)記憶機能のないものが使用可能で、関数電卓・金融電卓などの使用もできます。実務で使用可能なものはできるだけ試験でも利用できるようにするという実務重視の姿勢が現れています。ただし、このことはまた、解答の際、べき乗、自然対数、指数、現在価値等の計算が迅速にこなせる能力が求められることも意味しています。したがって、Formulae と電卓を的確に使いこなせるかが、CIIA 試験の合否を分ける大きな要素の1つといえます。

4. 制度発足以来の試験の結果と当協会からの受験者の成績の特徴

以下の表のように、CIIA 試験の両単位合格者数は、2024 年 3 月試験実施後で 10,905 名に達しています。このうち、当協会からの両単位合格者数累計は 3,002 名です。なお、国別/協会別の詳細な内訳は公表されません。

最近 5 年間の CIIA 試験結果

試験実施時期	第 1 単位			第 2 単位			CIIA 試験 両単位 合格者数累計
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
2020 年 3 月	167	146	87.4%	160	106	66.3%	9,811
2021 年 3 月	162	118	72.8%	172	119	69.2%	10,109
2022 年 3 月	284	218	76.8%	274	207	75.6%	10,467
2023 年 3 月	185	159	85.9%	177	142	80.2%	10,631
2024 年 3 月	401	314	78.3%	362	234	64.6%	10,905

Ⅲ. 試験関連のスケジュール

当協会が実施する CIIA 最終試験は、年 1 回 3 月試験のみです。

なお、当協会の受験者が日本以外の地域で受験を希望する場合、ACIIA 加盟協会が設定した海外の会場において試験を受けることができます。ただし、すべての加盟協会が当協会からの受験者を受け入れるとは限らず、受験の可否は各加盟協会の判断に委ねられていますので、海外の会場で受験を希望する方は、事前に当協会までお問い合わせください。

	2025 年 3 月試験	2026 年 3 月試験
受験申込締切	2024 年 12 月 31 日	2025 年 12 月 31 日
試験日	2025 年 3 月 7 日 (アジア以外の 海外会場)、8 日 (アジア)	2026 年 3 月 6 日 (アジア以外の 海外会場)、7 日 (アジア)
合否通知送付	2025 年 5 月下旬	2026 年 5 月下旬

IV. 過去の試験問題の傾向

1. 出題形式

CIIA 試験では、理論の柔軟な理解力と実務的な応用力・判断力、論理展開力が問われ、出題形式はすべて事例問題となっています。出題数は、第1単位・第2単位とも4～6題程度となっています。そのうち、計算問題の割合を概算すると、次表のとおりです。

計算問題の割合

	第1単位 (180点)	第2単位 (180点)	第1・第2単位合計
	点数 (構成比)	点数 (構成比)	点数 (構成比)
2020年3月	115点 (64%)	114点 (63%)	229点 (64%)
2021年3月	127点 (71%)	95点 (53%)	222点 (62%)
2022年3月	125点 (69%)	89点 (49%)	214点 (59%)
2023年3月	91点 (51%)	82点 (46%)	173点 (48%)
2024年3月	92点 (51%)	80点 (44%)	172点 (48%)

計算問題かどうかの分類は判断を伴いますので、この数値はあくまでも目安に過ぎませんが、試験問題の相当部分が計算問題の形式で出題されていることが分かります。

2. 科目別の出題分野の特徴

これまでの出題分野を見ると、科目別の特徴として以下の点が挙げられます。

① 経済

マクロ経済分析の最も基本的なツールである IS-LM 分析と AD-AS 分析関連の問題（両者の組合せも含む）がよく出題されています。それぞれのグラフの横軸、縦軸の変数名、グラフ（曲線）の形状、曲線上の移動、曲線自体のシフトと均衡点の変化、およびそれらの解釈などが問われます。また、国際試験としての性格上、IS-LM 分析の開放経済への拡張にも対応できるようにしておくことが大切です。

ポイントは、グラフを用いた説明に習熟しておくことです。開放経済に関しては、マーシャル＝ラーナー条件が満たされていることが前提とされることが多く、Jカーブ効果についての出題も見られます。この他、為替レートの決定要因（購買力平価、金利平価）や金融政策などに関する設問も出題されています。

② 財務分析

EPS とキャッシュフロー（営業活動だけでなく投資活動と財務活動も）、企業結合（連結財務諸表の作成とのれんの計算）に関する設問もよく出題されています。いずれについても、事例に即して計算ができるよう準備しておくべきでしょう。この他にも、主要な財務諸表、財務諸表作成の仕組み、財務諸表分析の手法など、幅広い分野から出題されており、上記以外の項目についても、少なくとも基本的な部分は正確に理解しておく必要があります。また国際財務報告基準（IFRS）に則った問題も多く出題されています。頻繁に出題されてい

る分野については、過去の試験問題を用いて出題パターンを理解しておくべきでしょう。

③ コーポレート・ファイナンス

フリー・キャッシュフローやWACC（加重平均資本コスト）の計算、割引キャッシュフロー（DCF）法による企業価値の計算、NPV方式による投資案件採否の判断などの分野がよく出題されており、負債利用と資本コスト・企業価値との関係についても問われています。Formulae（公式集）の第1単位に出ている資産ベータ（アンレバード β ）と株式ベータ（レバード β ）の変換を伴う問題もよく出題されています。さらに、合併および買収（シナジー効果を含めた買収後の企業価値の計算）や自社株買いの効果に関する問題も出題されており、買収に関しては、関係する企業の株式時価総額やDCF法による買収後の企業価値に、シナジーの価値を含める出題例もあります。

基本的な計算については、（その背後にある論理の十分な理解も含めて）事例問題に解答できるよう習熟しておく必要があります。さらに、企業の財務行動と企業価値の最大化の関係も、モディリアーニ=ミラーの定理と関連付けて十分に理解しておく必要があります。

④ 株式分析

配当割引モデル（DDM）を用いて株式の理論価格や理論的な株価収益率（P/E）の水準を計算させる問題が数多く出題されています。与えられた財務データと予測データの前提条件から、DDMに即して論理を展開する能力が問われています。DDMなどの基本的なバリュエーション手法を、それぞれの算式の構成要素（利益、配当性向、成長率、要求収益率）の相互関係も含めて十分に理解し、事例に適用できるように準備しておくことが大切です。さらに、サステイナブル成長率の重要な構成要素である自己資本利益率（ROE）をデュポン・システムに基づいて分解する問題も出題されています。残余利益やフリー・キャッシュフローを用いた株価評価に関する設問も増えています。

⑤ 債券分析

ポートフォリオのデュレーションを所定の大きさにするために必要な構成銘柄のウェイトと購入価額または額面の計算、利回りが変化した場合のポートフォリオ価値変化のデュレーションによる推計など、ポートフォリオのデュレーションに関する出題は頻出問題です。コンベクシティについては、バーベル型とブレット型の優劣に関する問題も出題されています。金利の期間構造（イールドカーブ）の分野では、バタフライ戦略やスポットレート、フォワードレート、パーレート、最終利回りの関係について、計算問題のほか、将来のイールドカーブの形状と保有期間利回り等に関する出題が目立ちます。以上の分野を中心として、他には、コーラブル債、プッタブル債、転換社債、ワラント債、イミュニゼーション、OAS（オプション調整スプレッド）などの出題例もあります。

債券分析における基本的な概念を正確に理解しているかどうか、実際の計算に適用できるまで習熟しているかどうか問われています。また、金利の期間構造については、詳細かつ正確な理解が必要です。さらに、デリバティブ分析のシラバスに含まれるクレジット・デリバティブ関連の問題が債券との組合せで出題される可能性もあります。

⑥ デリバティブ分析

オプション戦略、ブラック＝ショールズ・モデル、プット・コール・パリティ、スワップ取引が頻出分野となっています。また、オプションを用いたポートフォリオ・インシュアランス、先物によるダイナミック・ヘッジに関する問題も出題されています。他に、二項モデル、債券先物も取り上げられています。形式としては、トピックの性格上、計算問題が多くなっていますが、オプションやスワップの基本的なリスク・リターン特性についての定性的な記述問題も出題されています。こうした面での対応に加えて、デリバティブ戦略については、ペイオフのグラフを的確に作図することも求められます。

⑦ ポートフォリオ・マネジメント

投資政策、アセット・アロケーション、株式ポートフォリオ運用、国際証券投資、オルタナティブ投資、パフォーマンス要因分析、トラッキング・エラー、リスク調整済みパフォーマンスの測度、市場アノマリー、年金 ALM など、ポートフォリオ・マネジメントに関する幅広い分野から出題されており、過去の出題パターンから明確な傾向は読み取れません。また、ポートフォリオ理論の基礎となるリスクやリターンの計算問題に加えて、確率・統計（正規分布表による確率計算）に関する問題も見られます。これらの分野を幅広く学習することが重要といえましょう。ただし、個々の設問は基礎的な事項を問うものが多いことも特徴ですので、基礎知識を確実に学習しておくことが肝要です。

3. CMA 試験との関係

CIA 試験のシラバスを見ると、CMA プログラムの内容と大部分が重複していることがわかります。また、これまでの試験問題を見ても、基本的には CMA 試験の学習範囲が習得できていれば十分に対応可能です。ただし、CMA であっても、次のような点に注意が必要です。

第 1 に、CIA 試験問題は複数の国々から提出された候補問題の中から選定されます。したがって、CMA 試験では見られないような場面設定に基づく出題や、異なった観点からの出題が含まれることもあります。また、公式集の利用を前提とした問題もなされています。

第 2 に、CIA 試験は受験者の記憶力や計算力ではなく、理論の柔軟な理解と実務的な応用力、判断力、論理展開力を求めるものとなっているため、出題は事例問題となっています。そのため、様々な事例を的確に読み取り、シラバスに盛り込まれている内容に関する知識を用いて、与えられた設問に対応する能力が問われます。

第 3 に、CMA 第 2 次試験と比較して、各設問への相対的な配点が大きくなっています。特定の分野に関する知識の欠如が大きな失点につながる可能性があり、これを他の部分でカバーすることが難しくなっています。したがって、全分野を満遍なく学習する必要があります。

V. 受験準備について

1. 全般的な留意点

(1) 苦手な科目・分野の克服

CIIA 試験の出題は、各科目にバランスよく配点されているだけでなく、2つの単位に分かれて試験が行われるため、特定の科目の失点が全体の得点に大きく影響します。そのため、一般論としては、苦手な科目・分野を克服することが全体の合計点を高める上で効果的です。また、これまでの日本の受験者の得点状況を見ると、全般に科目別では財務分析やデリバティブ分析、出題形式については科目を問わず計算問題や数量的問題に弱いという傾向がありますので、これらの分野の重点的な学習が求められます。

(2) 過去の試験問題の研究

学習を始める段階で、どのようなことが試験で問われ、どの程度の理解度が要求されているのかを把握したうえで試験準備を行えば、より効果的に学習を進めることができます。

過去の試験問題は、試験準備の最終段階において、自分の理解度を確かめるために解いてみるというのが最も一般的な利用方法かと思われます。しかし、学習を始める前に、まず過去の試験問題と解答例に目を通し、出題されている事項と出題形式、要求される解答のレベルを大まかに把握することも有効な方法です。もちろん、その後、試験当日までの間に、少なくとも過去に出題された問題は十分な解答ができるように反復練習しておく必要があります。その際、各問題への配点は時間配分の目安（40点の問題なら40分）になっていますので、解答する制限時間の目標になります。

過去の試験問題に関してもう一つ重要なことは、解答例を十分に理解することです。ただしその目的は、解答例の暗記ではありません。限られた試験時間の中で、完璧な解答を書くことは不可能であり、暗記そのものには意味がないからです。解答例には、他の教材では明確に説明されていないポイントの解説や、異なったアプローチからの解説が含まれることもありますので、関連事項をいわば立体的に理解して、応用力を涵養することが重要です。

2. 教材の特徴と活用方法

(1) 教材

CIIA 試験制度登録者は、新規登録時以降、当協会ウェブサイトのマイページから以下の教材を閲覧できます（詳細は後述）。

- Formulae（CIIA 公式集）
- CIIA 試験問題・解答例（過去5回分）
- CIIA Course Manual（英語版）

(2) Formulae (CIIA 公式集)

Formulae は、ACIIA の CIE が中心になってとりまとめた教材で、文字どおり公式を一冊に集めた公式集であり、解説は付されていません。試験前に重要な公式を再確認するために目を通すほか、他の教材を読み進める際に、一般的な公式の形で掲載されていない部分を Formulae で確認するといった利用方法が考えられます。

先に述べたとおり、Formulae は試験会場でも参照できる教材ですから、掲載されている公式を暗記して試験に臨む必要はありません。それぞれの分野での代表的な公式 (CIIA Course Manual や CMA 講座テキスト、推奨図書で取り上げられているもの) の意味を理解して、試験場では Formulae の該当箇所を直ちに見つけられるようにしておくことが目標となります。

(3) CIIA 試験問題・解答例

マイページから、過去 5 回分の試験問題・解答例を閲覧できます。

試験直前になると、試験問題・解答例の学習が受験準備の中心になりますが、解答例は背景や関連部分の詳しい解説を含んでいないこともあるので、試験問題・解答例だけを学習しても、類題やその応用問題に対応することは困難です。CIIA Course Manual に加え、CMA 講座テキストなどの教材も合わせて学習 (復習) してください。

(4) CIIA Course Manual (英語版)

スイスに本部がある AZEK (Swiss Training Centre for Investment Professionals) と ILPIP (International Learning Platform for Investment Professionals) が作成した公式教材 (英語版) で、当協会ウェブサイトのマイページから閲覧できます。この教材は、CIIA 試験のシラバスに対応した構成・内容となっており、CIIA 試験の出題範囲を網羅したものでかなりの分量ですが、CMA 講座で学習する内容と大部分が重複しています。したがって、試験シラバスの項目や過去の試験問題を見て、CMA 講座で学習した知識の再確認や試験に出題された内容の理解度をさらに深めるために活用するといった使い方が考えられます。

(5) [CMA 講座テキストと推奨図書 \(有料\)](#)

CMA 講座テキストに加え、推奨図書も復習に活用できます。最新版の講座テキストや推奨図書をお持ちでない場合等は、当協会ウェブサイトのマイページより割引価格で購入できます。これらテキスト等の対応箇所の内容を復習し、CIIA Course Manual 等の教材で補強することによって、CIIA 試験合格のための知識習得がより確実なものとなります。

i) CMA 講座テキスト

ii) 推奨図書

- 新・証券投資論 (日本証券アナリスト協会編、2009 年 6 月、日本経済新聞出版社)
 - I 一理論篇—小林孝雄・芹田敏夫著
 - II 一実務篇—浅野幸弘・榊原茂樹監修／伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣著
- 財務会計・入門 (第 16 版)
 - 桜井久勝・須田一幸著 (2023 年 3 月、有斐閣)

- 企業価値評価のための企業会計の基礎－動的理解と活用－
大瀧晃栄著（2022年7月、税務経理協会）
- 証券アナリストのための企業分析（第4版）
北川哲雄・加藤直樹・貝増眞著（2013年9月、東洋経済新報社）
（注）推薦図書は、当協会ウェブサイトのマイページから割引価格
（市販価格の約2割引）で購入できます。

3. 試験までの学習計画について

試験までの学習計画は、試験日から逆算して立てるべきです。その際、①試験直前の1週間は主として必要な記憶を固めることに重点をおくこと、②試験前1ヵ月程度は過去の試験問題の学習にあてることが望ましいという前提に基づき、上記の教材を活用した学習計画を立てることがポイントです。

日常は業務に時間とエネルギーを割かれるCMAの方々にとって、学習を進める上で大切なことは、たとえ短時間でも、毎日確実に学習時間を確保することです。1日30分でも100日間積み重ねれば50時間になります。試験の直前になって大幅な学習時間の不足が生じている場合、埋め合わせることはまず不可能です。十分な期間をとって、週末等にまとまった時間の学習を重ねてこそ、万全の準備ができます。

そして、最後まで諦めずに取り組むことも肝要です。試験場で机の上から教材等を片付ける指示があるまでは、受験の準備を続けることができるのですから、有効に時間を利用して専門能力を高められ、CMA資格の取得を実現されますようお願いいたします。

以上



Certified International
Investment Analyst

CIIA スタディ・ガイド (2025年版)

編集兼発行所：公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103 - 0026 東京都中央区日本橋兜町 2 - 1

東京証券取引所ビル 5階

印刷所：株式会社 太平社

2024年8月発行